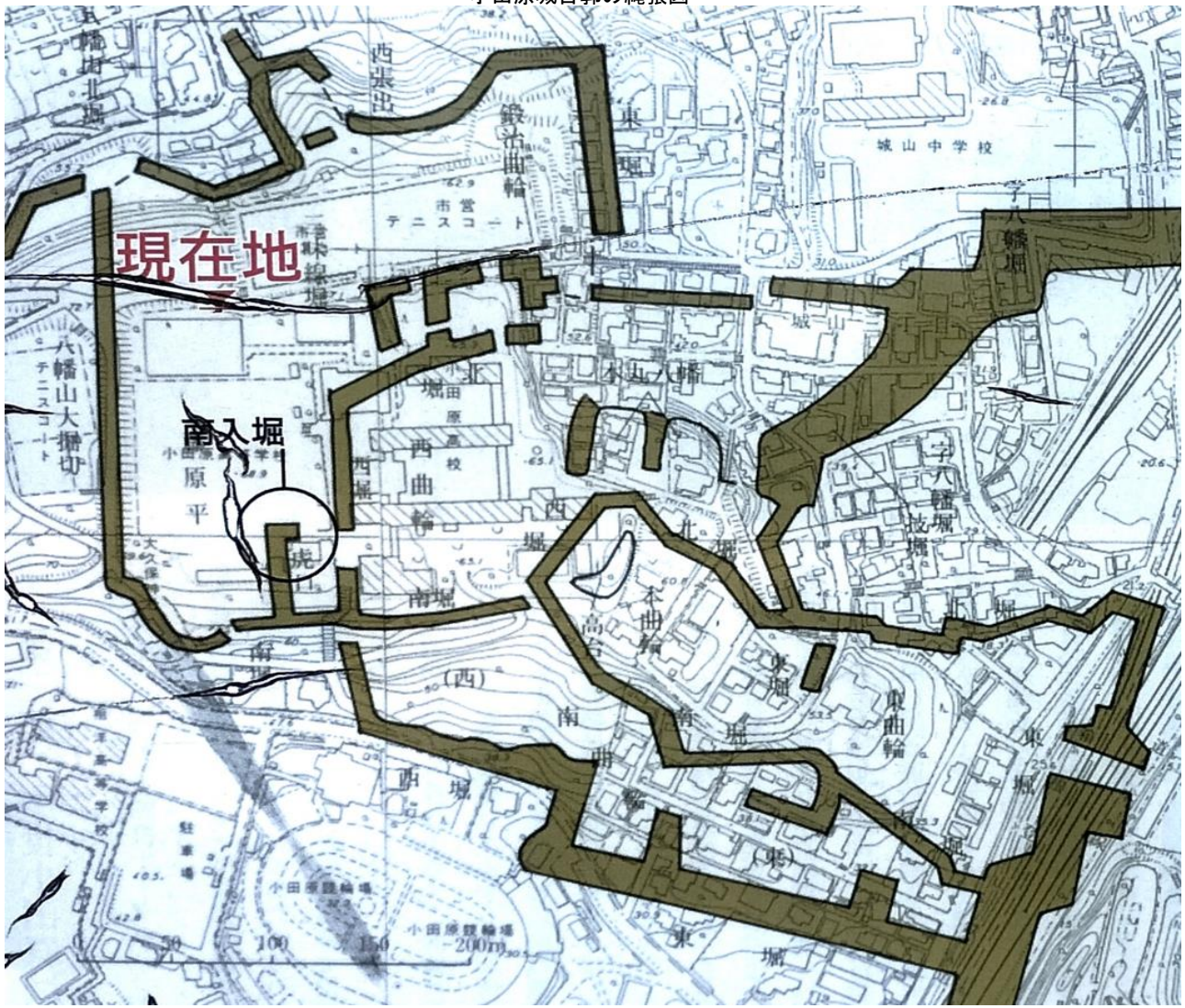
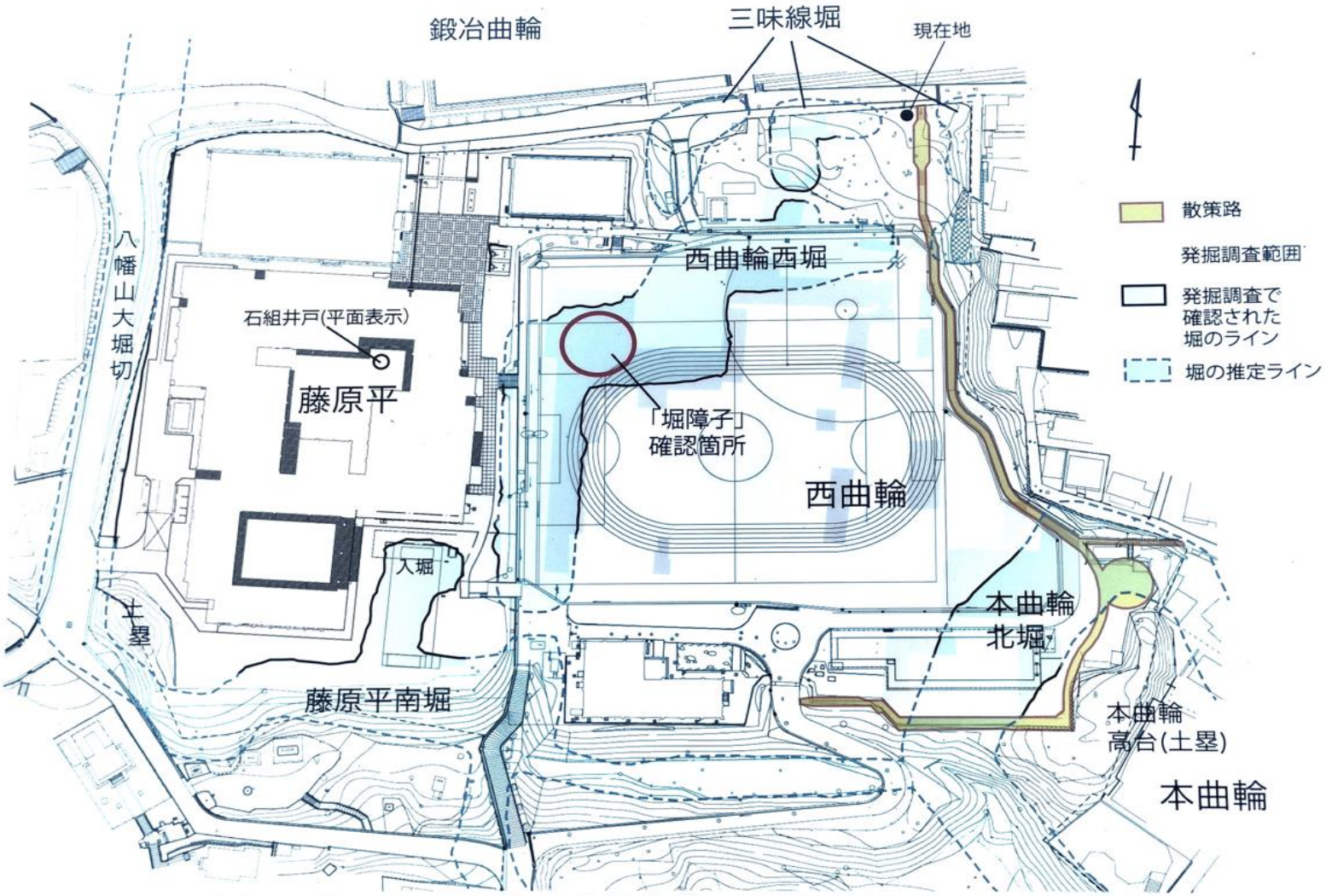
小田原城古郭・総構跡（小田原市）

小田原城の縄張図/東海道本線の左上のエリアに北条早雲以来の小田原城古郭が所在する/南側の海と、城域と城下町を取り込んだ総構（土塁と空堀）の鉄壁の要塞

小田原城古郭の縄張図


現在地
南入堀
西張出
鍛冶曲輪
東堀
城山中学校
八幡堀
市営テニスコート
八幡山大掘切
テニスコート
小田原高校
西曲輪
西堀
南堀
北堀
本曲輪
高石
(西)
南曲輪
東曲輪
(東)
字八幡堀
枝堀
小田原競輪場
0 50 100 150 200m

遺構が良く残っている西曲輪周辺の縄張図



小田原高校一帯における戦国時代遺構の展開（左図の□の範囲）

（『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より作成）

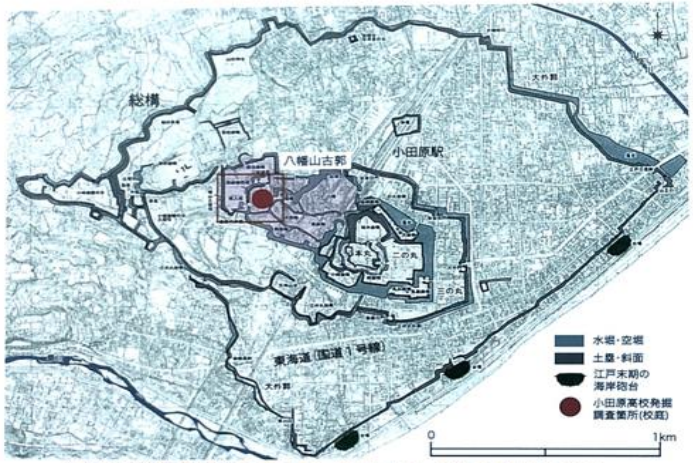
小田原駅前に立つ北条早雲騎馬像

西曲輪の遺構が残る県立小田原高校へ向かって百段坂を登って行く/この左手のエリアが本丸跡のようだが、遺構はほとんど残っていないらしい

右手は小田原市城山庭球場

左手に説明板があった

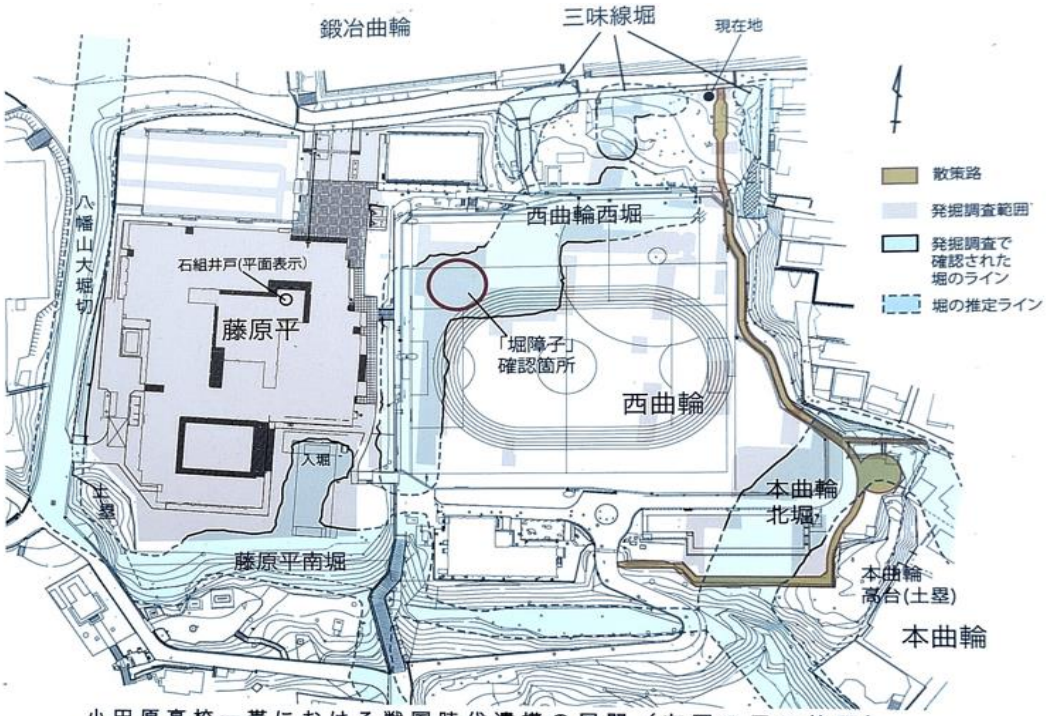
小田原城八幡山古郭（おだわらじょうはちまんやまこかく）



小田原城城域図（財団法人かながわ考古学財団 2010『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より作成）

散策路のルート

幕末の小田原城下絵図［文久図］八幡山部分

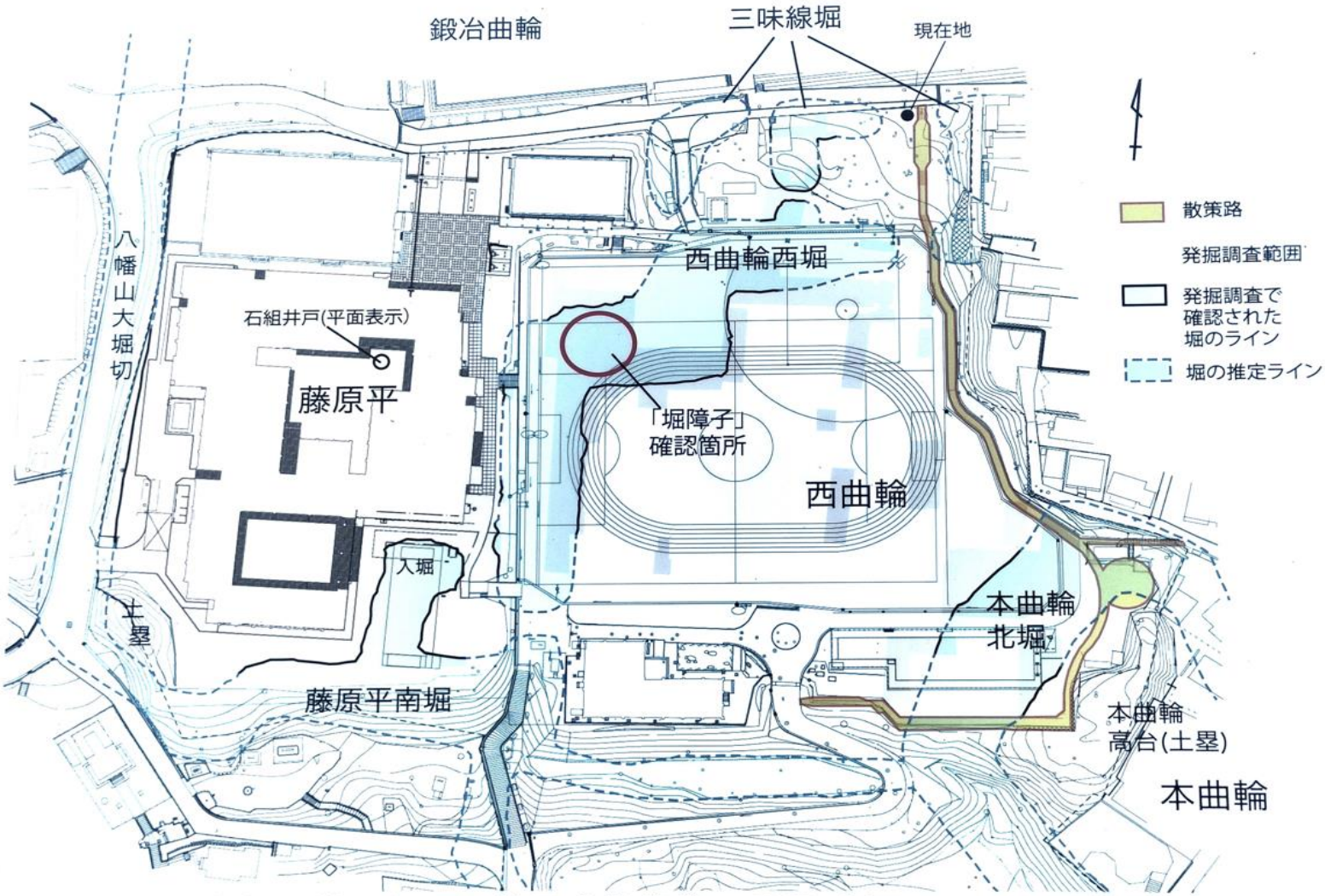


小田原高校一帯における戦国時代遺構の展開（左図の□の範囲）
（『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より作成）

県立小田原高等学校と周辺一帯は、戦国時代の北条氏小田原城の山の手側の中心部でした。その一角に北条氏と江戸時代大久保氏によって「八幡社」が祀られていたことから「八幡山古郭」と呼ばれています。いま天守がそびえている城址公園は、江戸時代の姿で整備が進んでいますが、北条時代の本拠でもありました。戦国時代の小田原城は城址公園の本丸と、同じ尾根筋上にある八幡山に二つの主郭（本丸）を備えた独特の曲輪構成であったと考えられています。

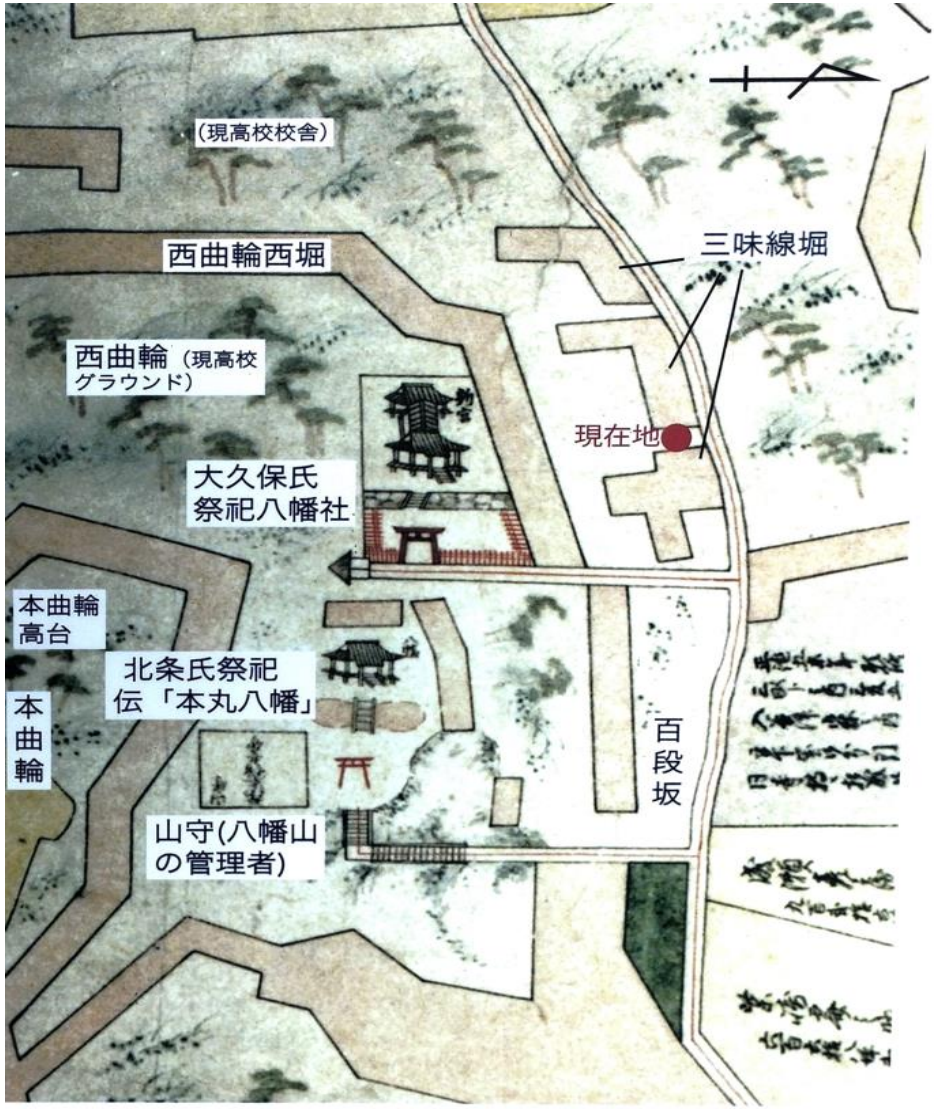
神奈川県教育委員会は、同高等学校の校舎建て替えにあたって、平成13・14・17・20・21年度にわたり、敷地内の発掘調査を行いました。その結果、表面は削られていましたが、堀や井戸など掘り込みの深い戦国時代の遺構は、そのまま残っていることが確認されました。このため、これらの遺構は、埋め戻して地下に保存し、新校舎や施設は、それらを壊さないように建てられています。神奈川県教育委員会は、戦国時代の小田原城をしのび、今なお地表に残る大型土塁や堀跡を巡ることができるように、学校及び地元市民の協力のもとで、この散策路を設置しました。

平成25年 神奈川県教育委員会・小田原市教育委員会



小田原高校一帯における戦国時代遺構の展開（左図の□の範囲）

（『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より作成）



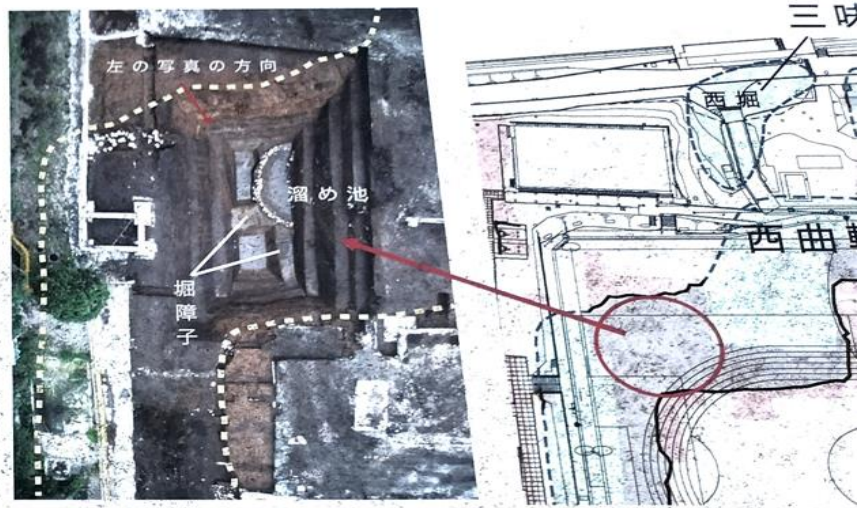
幕末の小田原城下絵図
［文久図］八幡山部分

西曲輪西堀と三味線堀

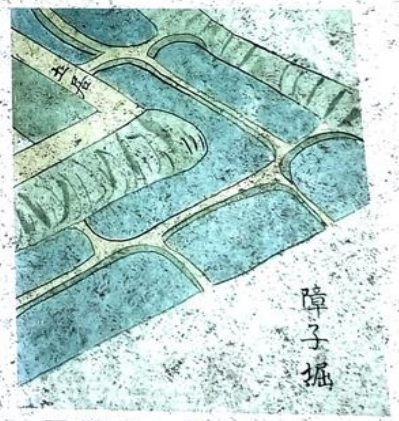
西曲輪西堀から検出された「堀障子」と「溜め池」（北側から）

発掘調査の結果、学校敷地の各所で戦国時代の遺構が検出されました。注目される成果としては、「西曲輪西堀」「藤原平入堀」の大規模な「障子堀」の発見があげられます。「障子堀」とは、堀の中での敵兵の動きを封じるなどのため、堀底の各所に壁状に土を掘り残して畝状の仕切り壁（堀障子）を設けた堀で、戦国時代の北条氏が多用した堀の特徴です。両側の段状壁面は土砂の崩落を防ぐための処置で、遺構ではありません。

調査の範囲に限界があるため、堀の全容を直接視認するまでには至りませんでしたが、堀の上幅 23～24m、底の幅 12.5m、深さ 6.4～7m、堀底の「堀障子」は上幅が約1m、下幅約4m、高さ 1.4mと、いずれも戦国時代最大規模の遺構であることが確認されました。「西曲輪」は、「本曲輪（本丸）」の背後にあたり、とりわけ防備を厳重にする必要があったものと推定されます。



西曲輪北半の堀の位置図（財団法人かながわ考古学財団

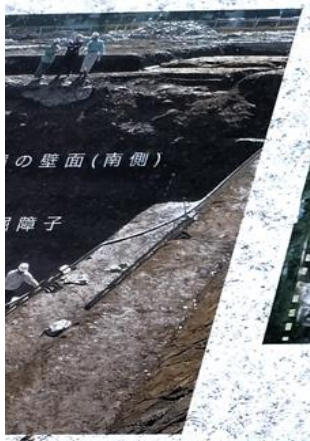


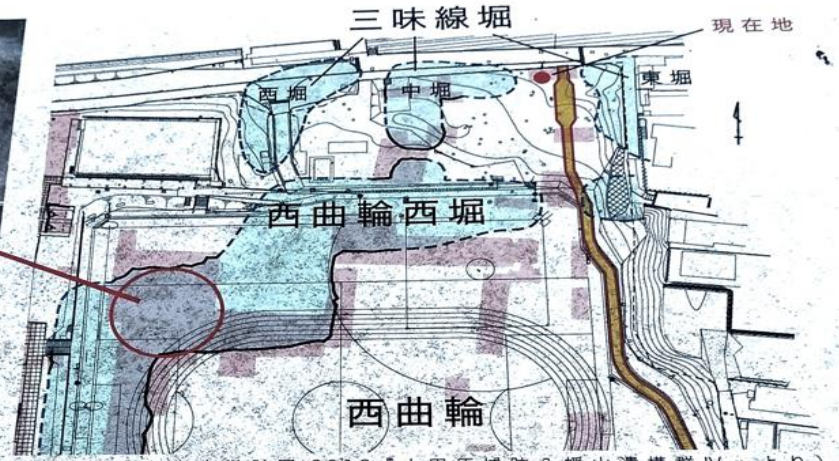
軍学書の「障子堀」図
有澤武貞著『疋夫之抄軍詞之巻二』
（東京都立中央図書館蔵）

左上、西堀の発掘状況の写
がよく見えます。縦横の畝状
造です（軍学書の「障子堀」
湧水があり、調査中は絶えず
い込む、楕円形に石で縁取
た。高校開校当時（大正3
を利用して造成された防火
現在の校庭北側には伝承
（虎口）と考えられ、3本
重にしていたようです。
の場所で確認され、その
本曲輪高台の北西側で
は、「本曲輪北堀」の一部
が発見され、上幅が27
mとさらに大規模でした
本曲輪高台の裾からは、
墳時代前期の「壺形埴
の破片も出土しており

古墳時代前期の古墳もあったようだ

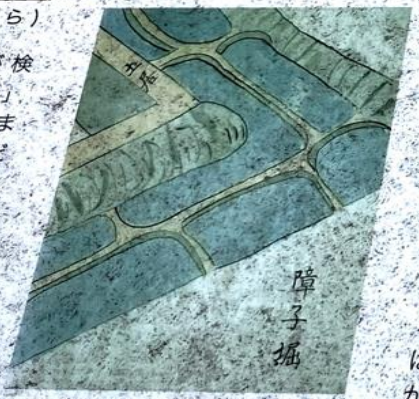
と三味線堀





西曲輪北半の堀の位置図（財団法人かながわ考古学財団 2010『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より）

（北側から）
の遺構が検
曲輪西堀」
あげられま
けじるなど
の仕切り
多用した
ための
認する
、底の
が約
最大
は、
重

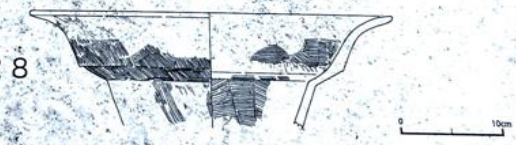


軍学書の「障子堀」図
有澤武貞著『疋夫之抄 軍詞之巻二』
（東京都立中央図書館蔵）

左上、西堀の発掘状況の写真に関東ローム層に掘り込まれた堀底の一部がよく見えます。縦横の畝状の堀障子は規模の大きい堀によく見られる構造です（軍学書の「障子堀」図参照）。ここでは、堀障子がひたる程度の湧水があり、調査中は絶えず排水をしていました。また、障子の一角に食い込む、楕円形に石で縁取られたモルタル敷きの溜め池も見つかりました。高校開校当時（大正３年）には、堀地形がよく残っており、その湧水を利用して造成された防火用水でした。

現在の校庭北側には伝承「三味線堀」があります。西曲輪の出入り口（虎口）と考えられ、３本の短い鍵折れ状の堀を組み合わせて、防御を厳重にしていたようです。その内、「中堀」が、ほぼ江戸時代の絵図どおりの場所で確認され、その輪郭を杭と綱により表面表示してあります。

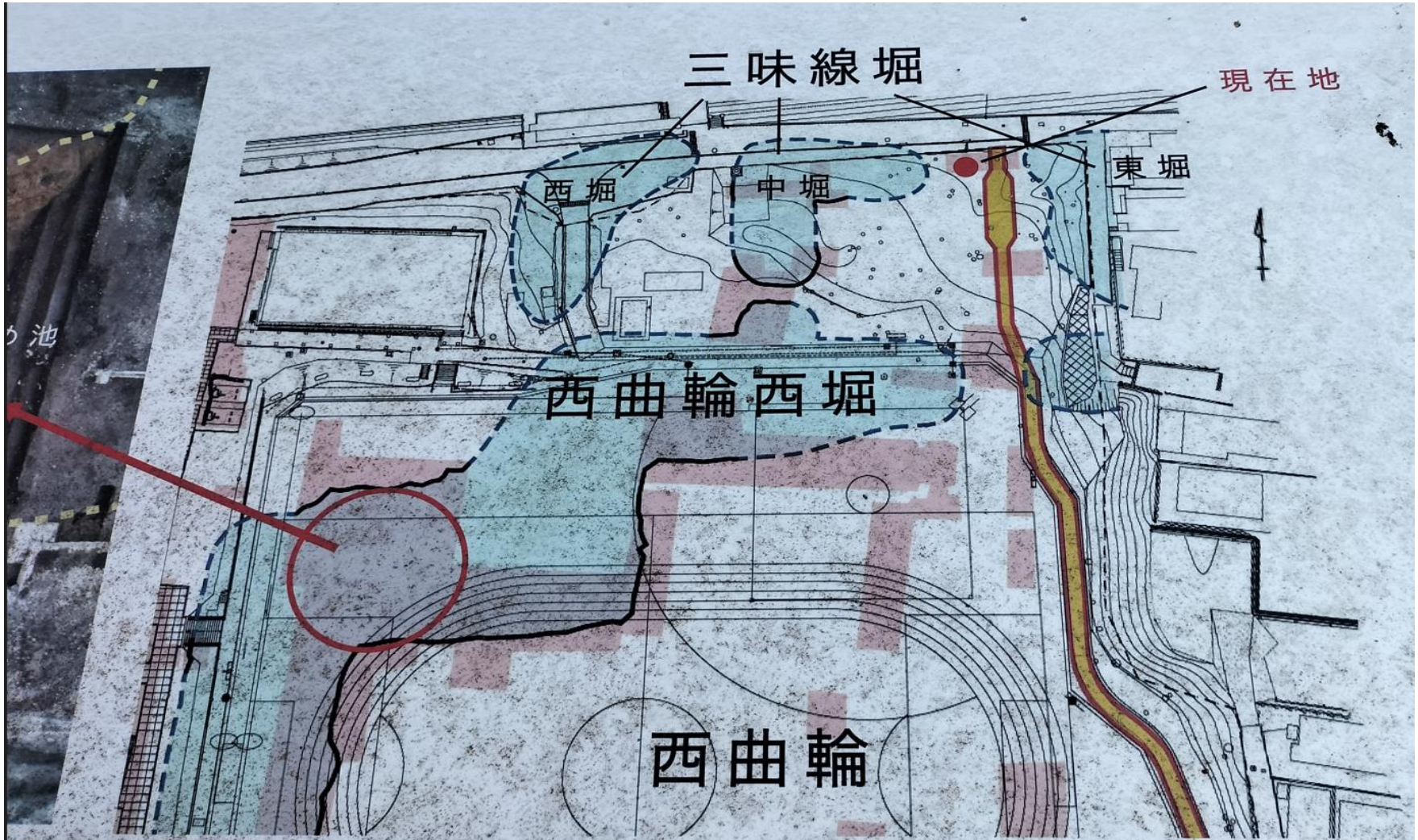
本曲輪高台の北西側では、「本曲輪北堀」の一部が発見され、上幅が２７～２８ｍとさらに大規模でした。本曲輪高台の裾からは、古墳時代前期の「壺形埴輪」の破片も出土しており、この地に古墳が存在したことがわかりました。



本曲輪高台北西側出土
「壺形埴輪」実測図
（『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より）

※参考　長柄桜山古墳群出土壺形埴輪（逗子市・葉山町教育委員会 2012『国指定史跡長柄桜山古墳群第１号墳発

原市教育委員会



（財団法人かながわ考古学財団 2010『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より）

フェンス内に白い標柱が立っている

video

「三味線堀」とある/ここが西曲輪北側の三味線堀の中堀跡らしい

video

この辺りもそうなのか・・・

video

県立小田原高校のグランドに通じる歩道から見たところ

video

もう少し進むと、この辺りが西曲輪西堀跡であろうか・・・ video

県立小田原高校のグランド/このエリアが西曲輪跡

video

さて、こちらに標柱が立っていた

video

「八幡山」とある

裏面には説明書きもあった

ここは県立小田原高校の正門手前にある通用門/この辺りは三味線堀の西堀跡と思われる

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

video

そこで、振り返って見ると、こちらにも標柱が立っていた

video

「鍛冶曲輪」とある

裏面には説明書きもあった

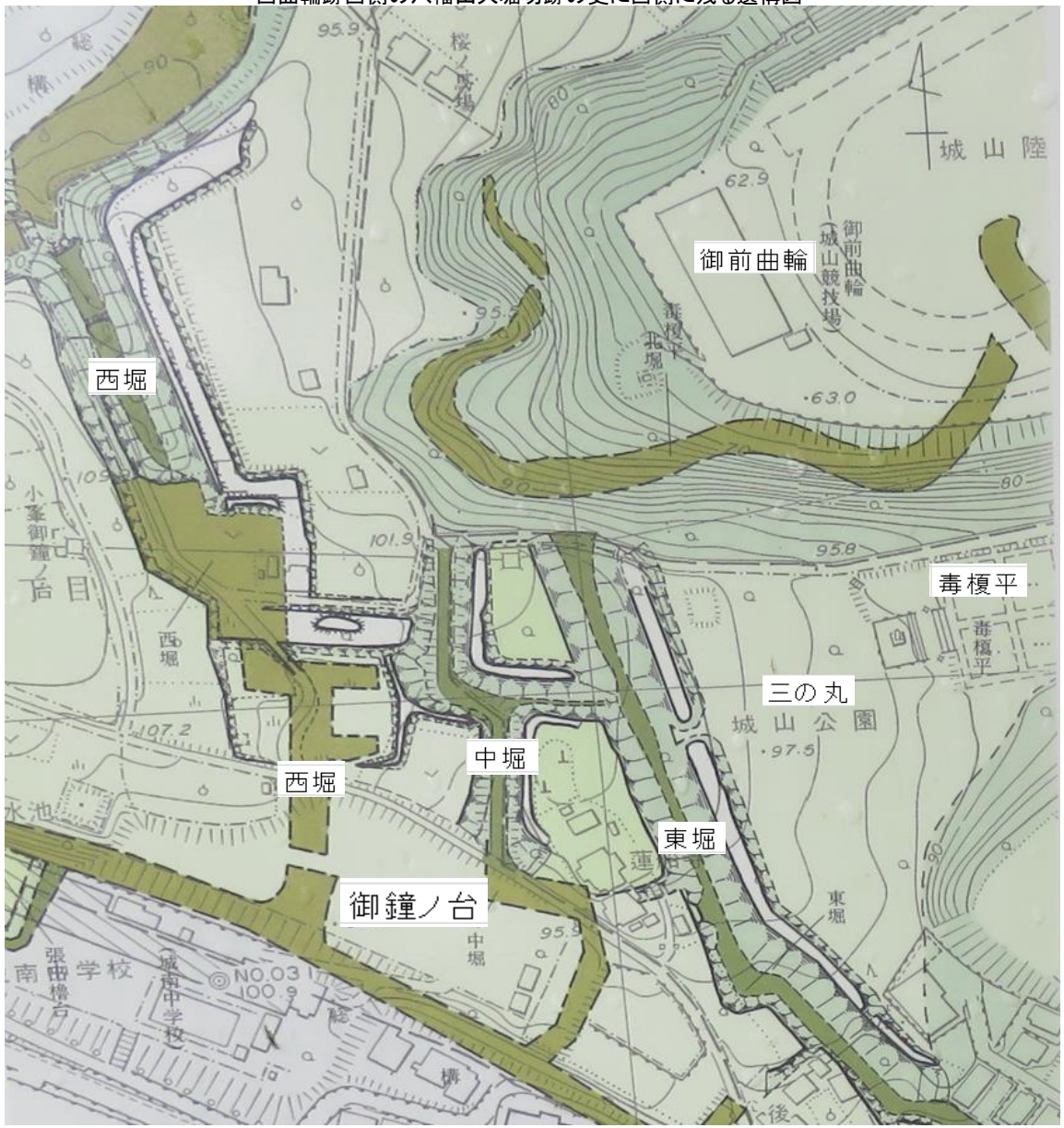
この小田原市城山庭球場となっているエリアが鍛冶曲輪跡のようだ

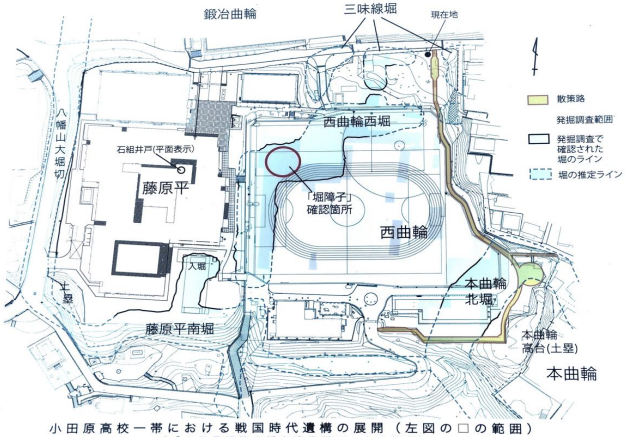
こちらが県立小田原高校の正門/ここを入って行くと、西曲輪の西に所在する藤原平というエリアのようだ

校舎棟の辺りが藤原平、グランドの辺りが西曲輪跡、校舎棟とテニスコートの間の道路となっている所が八幡山大堀切跡

そこで、振り向いて北方向を見たところ/駐車場となっているが、この部分も鍛冶曲輪跡か・・・ video

西曲輪跡西側の八幡山大堀切跡の更に西側に残る遺構図





小田原高校一帯における戦国時代遺構の展開（左図の□の範囲）
（『小田原城跡八幡山遺構群Ⅳ』より作成）

ここを下って行くと城山陸上競技場がある

ここが城山陸上競技場で、御前曲輪跡とされる

video

「御前曲輪」と刻まれた標柱が立っていた

裏面には説明書きもあった

ここは毒榎平/三の丸に相当する/公園となっている

video

「毒榎平」と刻まれた標柱が立っていた

前方は公園内にある戦没者慰霊塔

video

その左手で、西方向を見たところ

video

西方向へ少し進むと土塁が見えて来た

video

この土塁の向こう側に、土塁に沿って小峯御鐘ノ台大堀切の東堀がある

video

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

史跡
小田原城跡

小田原城の土塁

Earthworks of Odawara castle

戦国時代の小田原城の土塁が残っている部分は多くはありませんが、小峯御鐘ノ台（こみねおかねのだい）大堀切東堀（おおほりきりひがしぼり）には土塁が残っています。

現在では幅約４m、２m程度の高さが残るのみですが、土塁は堀を掘った土を積み上げて造られるため、堀の規模から考えると本来はさらに高かったものと思われます。

小田原城総構のうち、東側の蓮上院土塁や南西側の早川口土塁は戦国時代の名残を残しています。

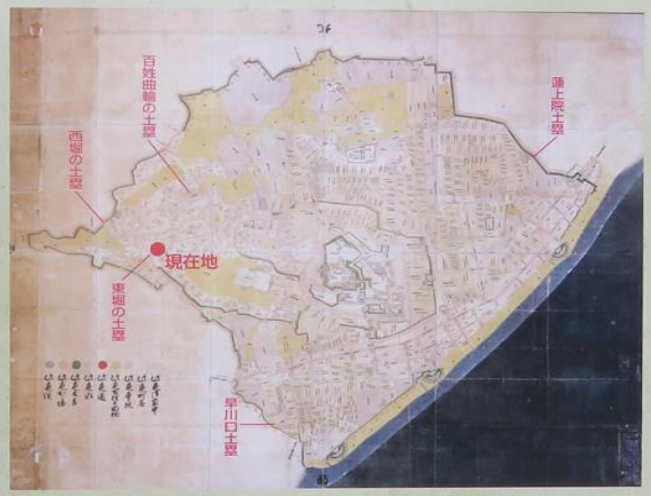


図1 「文久図」より 小田原城に残る戦国時代の土塁

図2 蓮上院土塁の様子

図3 早川口土塁の様子

2018.3 小田原城総合管理事務所

その土墨を右手から左方向に見たところ

video

かなりの高さがあることが見て取れる

さて、小峯御鐘ノ台大堀切の東堀を見てみよう

ここが上図の現在地（赤丸）で、小峯御鐘ノ台大堀切の東堀/ここから堀跡を北方向に進もう！

国指定史跡小田原城跡

小峯御鐘ノ台大堀切東堀

こみねおかねのだいおおほりきりひがしぼり

指定　昭和13年8月8日
昭和52年5月4日

小峯御鐘ノ台大堀切は、東堀、中堀、西堀の３本からなる戦国時代に構築された空堀です。

北条氏は、天正18年（1590）の豊臣秀吉の小田原攻めに対し、総構（そうがまえ）といわれる周囲約9kmの堀や土塁を構築し、その中に城のみならず城下町までを取り込んだ戦国期最大級の城郭を築きました。

この大堀切東堀は、総構以前に構築された三の丸外郭に相当し、本丸へと続く八幡山丘陵の尾根を分断しており、敵の攻撃を防御するために築かれた空堀です。総構とともに小田原城の西側を守る最も重要な場所であったと考えられます。

東堀は、幅が約25～30m、深さは堀底から土塁の上面（天端）まで約12～15mあり、堀の法面は50～60度という急な勾配で、空堀としては全国的にも最大規模のものといえます。

発掘調査によると、堀には堀障子（ほりしょうじ）や土橋状の掘り残し部分のほか、横矢折れと呼ばれるクランク部分（写真参照）などが設けられていることが確認されました。こうした堀の構造は北条氏が積極的に用いたもので、戦国時代の小田原城の特色をよく表しています。

堀跡は横矢が掛けられるようにクランクしながら続いている

video

こんな塩梅

video

これは凄い！

video

右上は三の丸跡

video

空堀としては全国的にも最大規模のものと云う

video

前方に道路のガードレールが見えて来た

そこで、右手を見上げたところ

video

そこを上ったエリアが三の丸跡

video

振り返って、堀底を見たところ

堀底に下りて、更に道路のガードレールの方向に進む video

史跡
小田原城跡

小峯御鐘ノ台大堀切東堀

Komine Okanenodai west moat large-scale trenches of Odawara castle

現在、小峯御鐘ノ台大堀切東堀と呼んでいる堀は、本来は三の丸新堀の一部であり、もともとは小田原城の外郭の一部でもありました。その後天正15年（1587）から、総構堀とともに小峯御鐘ノ台大堀切中堀・西堀が構築されたことで、小峯の丘陵を守る一連の堀切としての役割を担うようになりました。

現況土塁上から測った堀幅は25～30m、深さはおよそ8～10mですが、発掘調査で確認された堀底までを含めると深さは12～15mであったことがわかっています。堀法面の角度は50～60度で、堀底に堀障子を有する障子堀であったことも確認されています。

現在、堀は延長280mの長さで堀底が散策路となっており、途中2箇所の「横矢掛り」を確認でき、堀や土塁の規模が体感できます。

図1 「文久図」より

図2 小峯御鐘ノ台大堀切全体図

図3 発掘調査で確認された堀の法面と堀底

2018.3 小田原城総合管理事務所

道路から振り返って見たところ/上記の説明板があった

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ/こちらにも説明板があった

史跡
小田原城跡

小田原を守った総構と三本の堀切

The outer citadel and three moats saved Odawara castle

戦国時代の小田原城は、小峯御鐘ノ台（こみねおかねのだい）（標高123.8m）を頂点とし、周囲9kmにわたって堀と土塁を構築して外郭とした大規模な城郭でした。小田原城では、この外郭（がいかく）の堀・土塁を「総構（そうがまえ）」と呼んでいます。

小峯御鐘ノ台は、尾根伝いに箱根山と連なっているため、尾根上の往来を遮断するための大規模な堀切が構築されています。堀切は3本あり、現在「東堀」「中堀」「西堀」と呼んでいますが、東堀はもともと三（さん）の丸新堀（まるしんぼり）の一部であり、総構堀の構築に伴って西堀・中堀が構築されたことで、一連の大堀切となりました。

東堀は、現在北側の谷津の谷から約280mの長さが残り、南側は道路により寸断されていますが、本来は三の丸新堀とつながっています。中堀も北側は谷津の谷を起点として約150mの長さで南側の総構堀に連結し、西堀は約215mの長さで南北ともに総構と連結しています。

いずれも大規模な堀で、戦国時代の小田原城の特徴をよく現しているとともに、小田原北条氏の土木技術の高さを示しています。

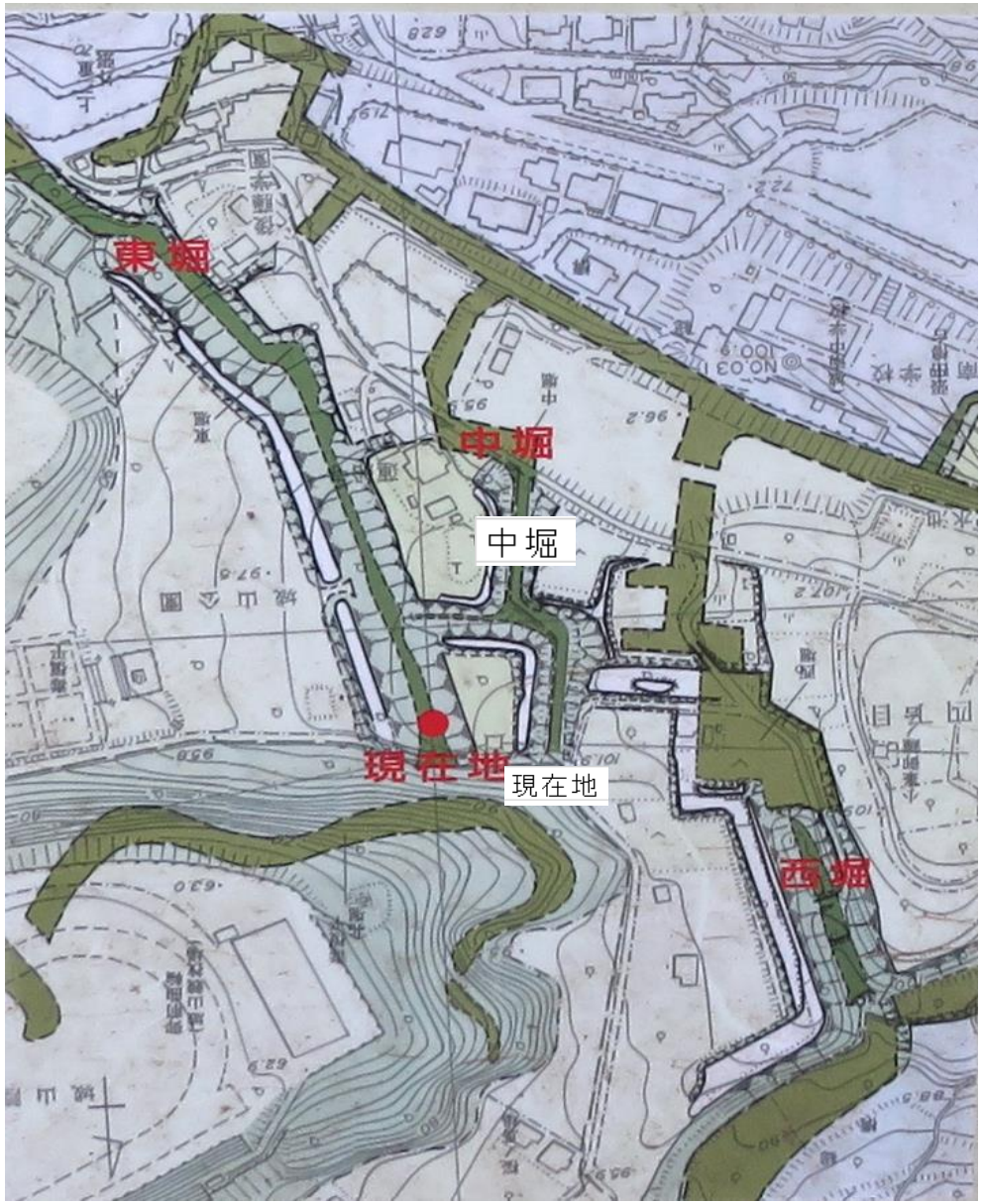
図1 「文久図」より

図2 小峯御鐘ノ台大堀切全体図

2018.3 小田原城総合管理事務所

人の大きさと比べると、堀の巨大さが良く分かる

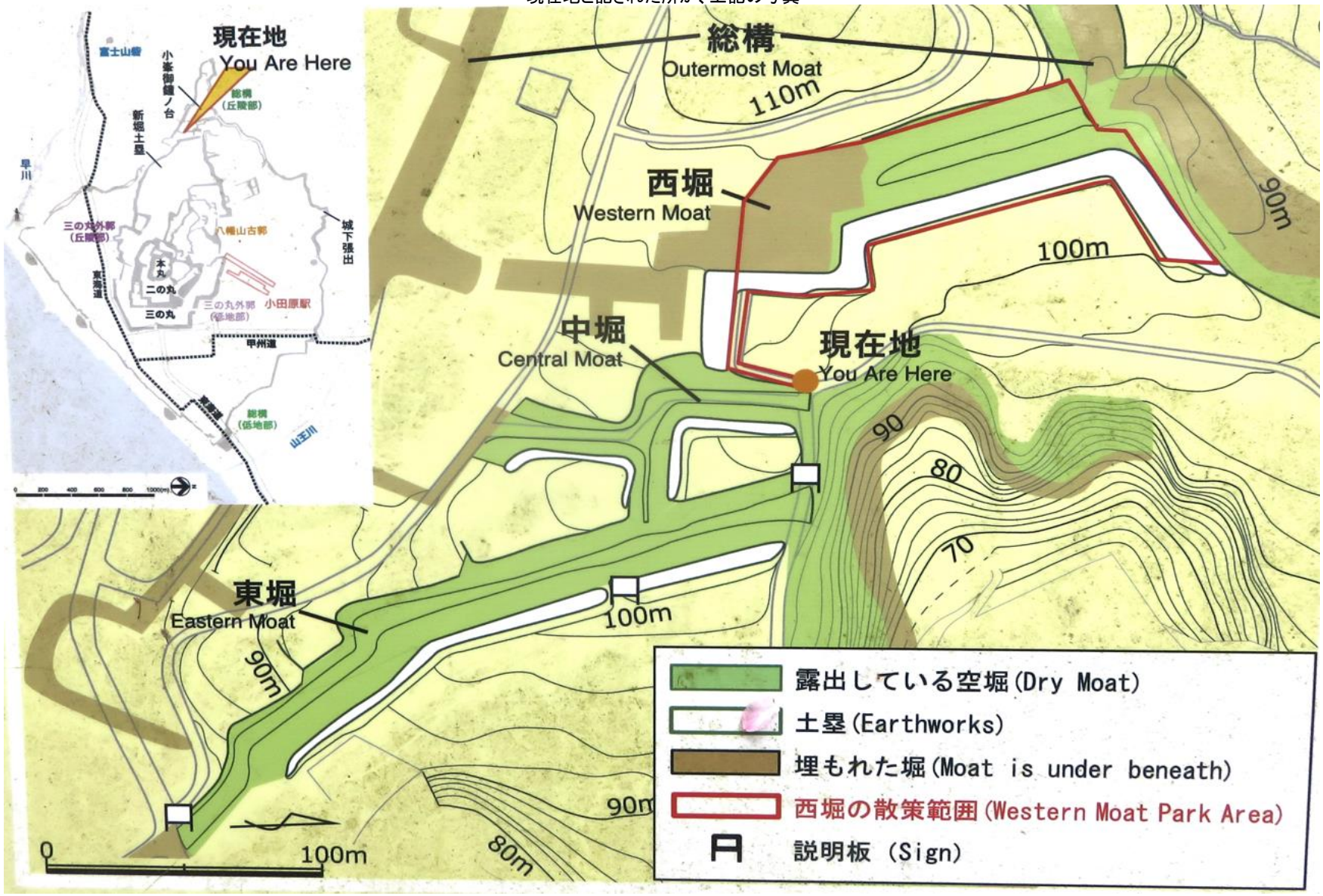
video


東堀
中堀
中堀
現在地
現在地
西堀

ここは上図の「白抜きの現在地」/左の道路が小峯御鐘ノ台大堀切の中堀跡/右上に登って右方向に進むと西堀跡がある

この道路が中堀跡

現在地と記された所が、上記の写真



そこで、左手を見たところ/この先が東堀跡があった所

同じく、右手を見たところ/こちらを登って右方向に進むと西堀跡がある

video

さて、ここは中堀跡を南方向に進んだところ/折れを伴っている

そこから少し進んで左手を見ると、堀跡がある

video

その堀跡を進む

ここは東堀跡であった/前方の上は三の丸跡

そこで、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

振り返って、その堀跡を見たところ

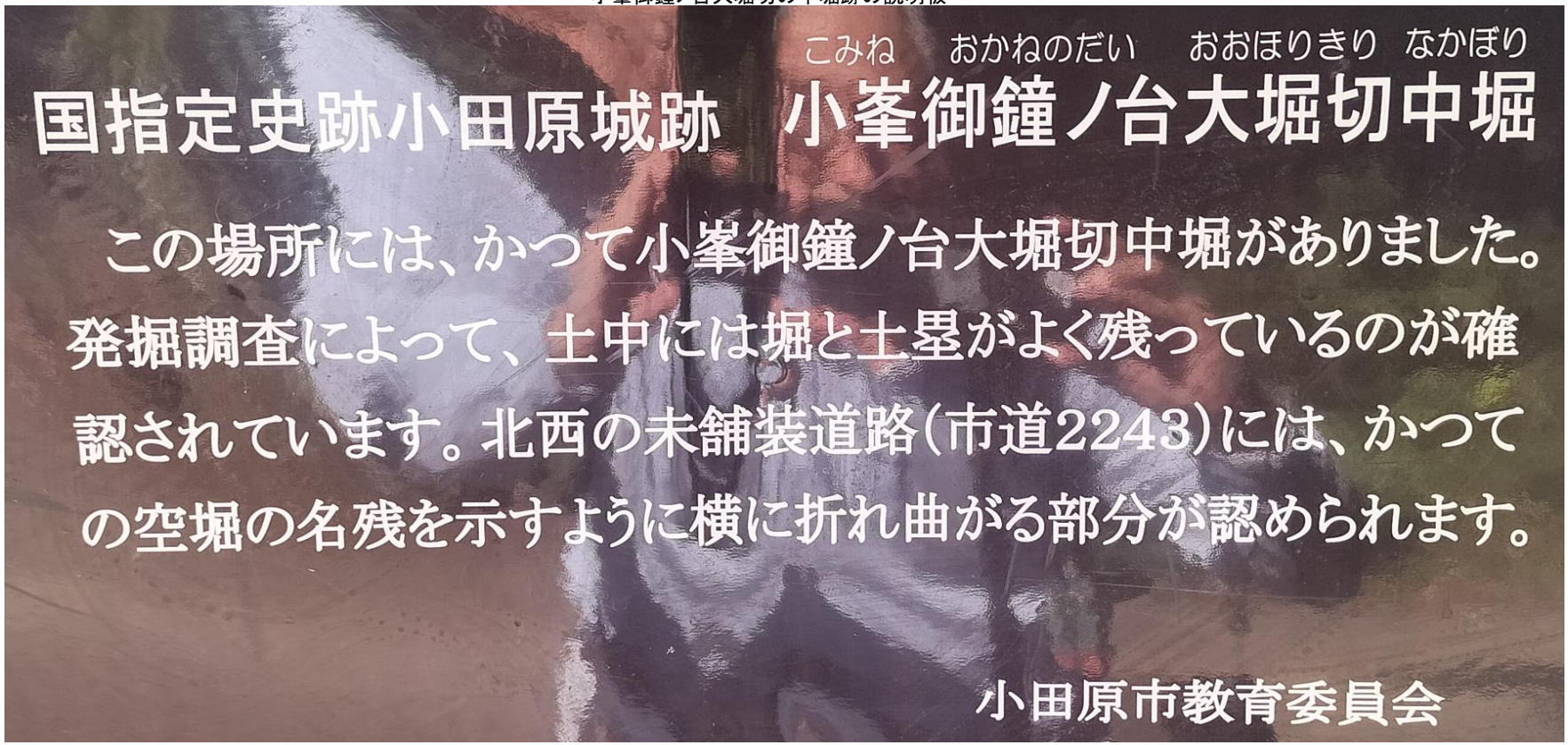
video

元へと戻る/ここが中堀跡

これは中堀跡をもう少し進んで、振り返って見たところ

video

小峯御鐘ノ台大堀切の中堀跡の説明板



ここはその道路を更に南方向に進んで、振り返って見たところ（この辺りは中堀跡から少しズレているようだ）

そこを右手に入り込むと、☞ videoの通り、東堀跡が見えた ☞ video

さて、こちらを登って右方向に進み、西堀跡を見てみよう

前方に西堀跡があるようだ/左手は土塁

video

そこで、振り返って中堀跡を見たところ

video

前方に説明板があるようだ

video

その説明板に進んで、振り返って土塁を見たところ

video

これが説明板

史跡
小田原城跡

小峯御鐘ノ台大堀切西堀

Komine Okanenodai west moat large-scale trenches of odawara castle

城山公園の西側には、三つの巨大な堀と土塁が並列し、これらを併せて「小峯御鐘ノ台大堀切」と呼んでいます。

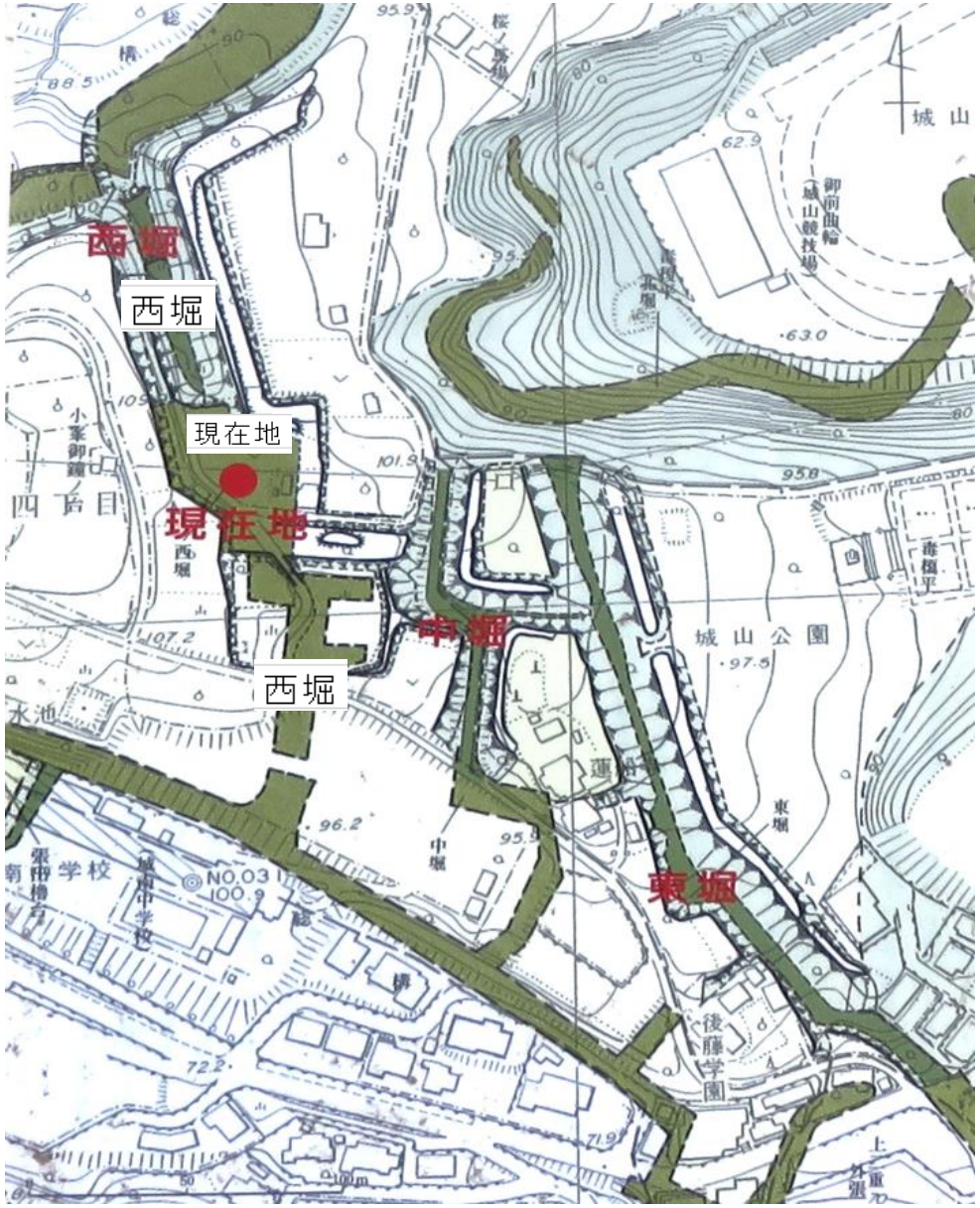
このうち東堀は戦国時代の三の丸新堀と同時期につくられた堀ですが、西堀と中堀は、天正18年(1590)の小田原合戦への備えとして、小田原城の防衛機能を高めるために総構と一緒に造られたものです。

大堀切西堀には雄大な堀と土塁が残り、小田原城の最も外側に展開する堀や土塁からなる総構とその一部である西堀が接続している様子や、小田原城の広大さを観察することができます。

図1 「文久図」より

図2 小峯御鐘ノ台大堀切全体図

2018.3 小田原城総合管理事務所


西堀
西堀
現在地
現在地
西堀
中堀
東堀
城山
城山公園
四谷目
小峯御殿
蓮池
東堀
中堀
後藤学園
NO.03
100.9
95.9
88.5
62.9
63.0
95.8
101.9
107.2
97.5
96.2
95.3
71.9
72.2

国指定史跡小田原城跡

指定年月日：平成２３年２月７日

小峯御鐘ノ台大堀切西堀

こみねおかねのだいおおほりきりにしぼり

Komine Okanenodai O-horikiri Nishibori (Western Dry Moat)

ここが西堀散策の入口です。

Entrance to the Western Moat

※西堀は散策範囲以外には立ち入らないでください。

Only the park area is allowed

見学できる空堀

Dry Moat

この付近一帯は、戦国時代の小田原城の姿が大変よく残されている場所です。当時の小田原城は、江戸時代に改修された現在の城址公園周辺とは異なり、高い石垣（いしがき）などを用いず、土を盛った土塁（どるい）や空堀（からぼり）を複雑に組み合わせて築かれていました。

戦国時代の小田原城は、城主の小田原北条氏の勢力が拡大するのに合わせて城の範囲を拡大させていきました。天正18年（1590）、豊臣秀吉の大軍が小田原城を取り囲んだ時には、総構（そうがまえ）と呼ばれる全周約９Kmにも及ぶ土塁と空堀で城を守っていました。

小峯御鐘ノ台は、この総構とその内側を守る三の丸外郭の堀が接続するところにあたり、平行して南北に走る西堀（にしぼり）、中堀（なかぼり）、東堀（ひがしぼり）の規模の大きな３条の空堀を複雑に組み合わせ、山の尾根を遮断して守りを大変堅固なものにしています。現在も西堀の北端では、この総構と接続しているところを見ることができます。このように、小峯御鐘ノ台周辺は、戦国時代の小田原城を知るうえで、大変重要な場所です。

You are standing inside the Central dry moat (fortification of the Odawara Castle) which was constructed at the end of the 16th century to defend the attack of Toyotomi Hideyoshi. The Western moat is attached to the outermost moat surrounding the Odawara Castle which remains today. These moats and earthworks were made strategically, and the most deepest place is about 9m below the top of this structure.

小田原市教育委員会

連絡先：小田原市文化部文化財課　電話：0465-33-1715

そこで、左手に西堀跡を見たところ/こちらは埋まってしまっているようだ

同じく、右手に西堀跡を見たところ/手前は埋められてしまっているようだが、その先に堀跡が残っているらしい video

では、その先の西堀跡方向へ進もう

ここが西堀跡のようだ/北方向に続いている

堀底に下りてみよう

右手を見たところ/堀底に段差がある

video

堀底が見えて来た

video

堀底に下り切ったところ/前方が北方向

そこで、振り返って上の段の堀跡方向を見たところ

video

これは西堀跡の北端で、総構にドッキングしている/総構は右手から左手へ城域を大きく取り巻いている video

左手の総構を見たところ

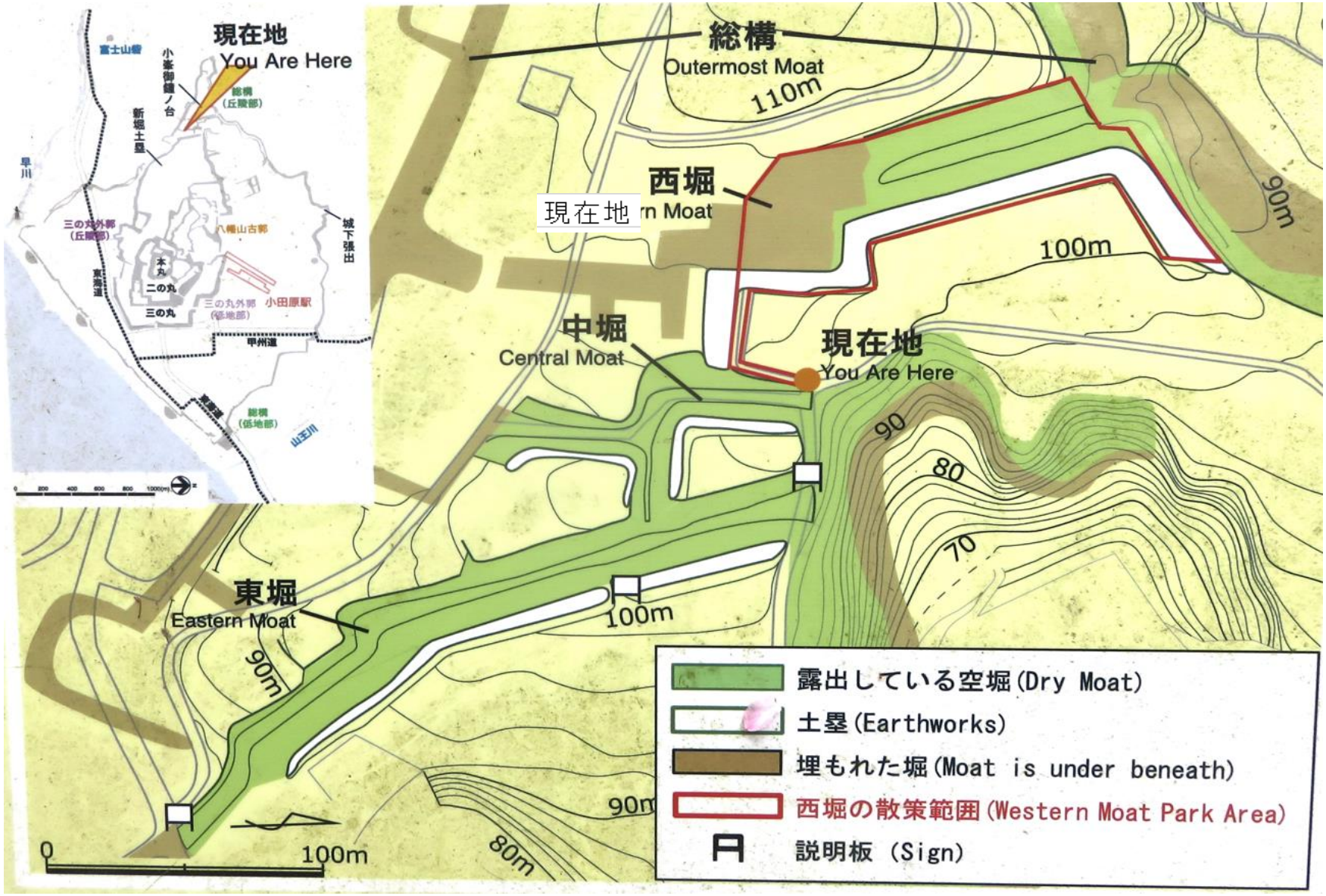
video

西堀跡の北端で、振り返って西堀跡を南方向に見たところ/堀跡は段になって上がっているのが見て取れる

それらの段は、このように石が積まれていた

一段高い堀底で、低い方を見たところ

video


現在地
You Are Here
富士山麓
小峯御鐘ノ台
総構
(丘陵部)
新堀土塁
早川
三の丸外郭
(丘陵部)
八幡山古郭
城下張出
本丸
二の丸
三の丸
東海道
三の丸外郭
(低地部)
小田原駅
甲州道
総構
(低地部)
山王川
総構
Outermost Moat
110m
西堀
現在地
n Moat
100m
90m
中堀
Central Moat
現在地
You Are Here
90
80
70
東堀
Eastern Moat
90m
100m
90m
80m
0
100m
露出している空堀(Dry Moat)
土塁(Earthworks)
埋もれた堀(Moat is under beneath)
西堀の散策範囲(Western Moat Park Area)
説明板 (Sign)

ここは上図で白抜きの「現在地」の場所/北方向に、埋められてしまった西堀跡を見たところ/説明板が立っている video

国指定史跡小田原城跡　小峯御鐘ノ台大堀切西堀
こみね　おかねのだい　おおほりきり　にしぼり
この場所には、箱根外輪山から続く尾根を断ち切るように築かれた三本の堀切（小峯御鐘ノ台大堀切）のうち、一番西側の堀がありました。現在はその大半が埋め立てられていますが、北側には空堀と土塁が良好に残っています。
小田原市教育委員会

そこで、振り返ると「御鐘ノ台」と刻まれた標柱が立っていた

裏面には説明書きもあった

video

さて、「御鐘ノ台」の標柱があった「現在地」から、「香林寺西土塁跡」～「水之尾口櫓台跡」へと進んでみよう

ここが香林寺西土墨跡

video

土墨の上に登って、西方向を見たところ

video

少し進んで見たところ/左手が堀跡

そこで、振り返って見たところ

video

西方向のこの先は、墓地で土塁が削平されてしまっている

video

その墓地の手前で、振り返って見たところ

video

さて、水之尾口櫓台跡へはここを左手に入って行く

少し登って行くと、説明板が立っていた

video

史跡
小田原城跡

総構 水之尾口櫓台

Mizunooguchi base of turrets of Odawara cas

天正18年(1590)、豊臣秀吉は関東の覇者である小田原北条氏を攻めて、小田原を舞台に北条氏政・氏直親子と天下統一を決める合戦を行いました。

北条方は秀吉の来襲に備え、小田原城と城下を周囲9kmにわたって堀と土塁で囲んだ総構を築きました。この場所は総構の最西端の標高約120mの最高地点にあたり北条方と対峙した、豊臣方の陣を望むことができます。

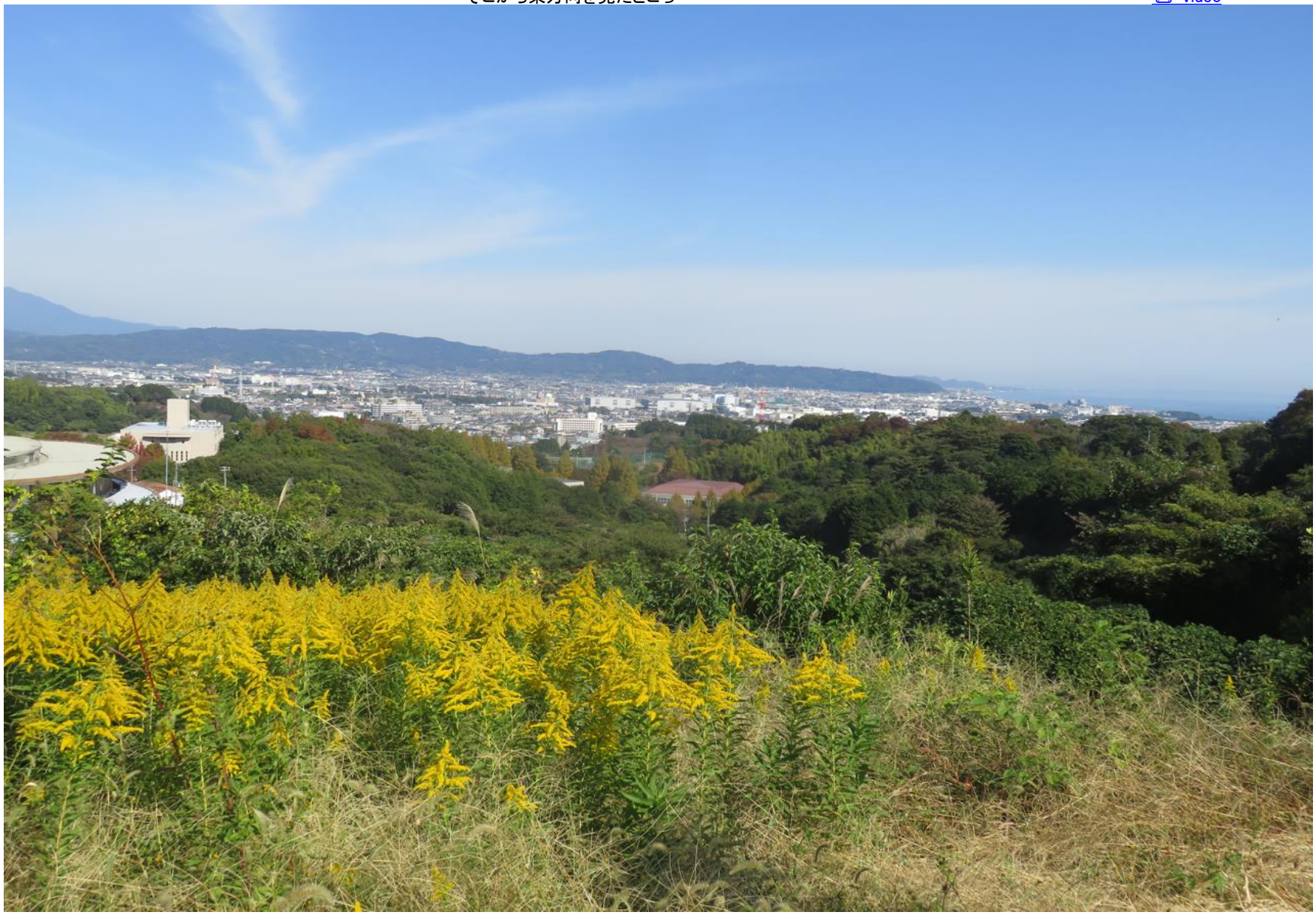
この櫓台の約300m北側に築かれたのが、「荻窪仕寄陣場」です。平成元年(1989)の発掘調査では、銅や鉛製の鉄砲玉が発見されており、小田原合戦に関する陣場であると考えられます。標高約90mの丘の頂上を囲む形で造られた堀は馬蹄形で、その先端は小田原城の方向を向いています。このことから豊臣方の陣場ではないかと考えられていましたが、発掘調査で出土した「かわらけ(土器)」などは小田原で作られたものであったため、北条方の出城であった可能性が指摘されています。

図1　小田原合戦の攻囲陣立図

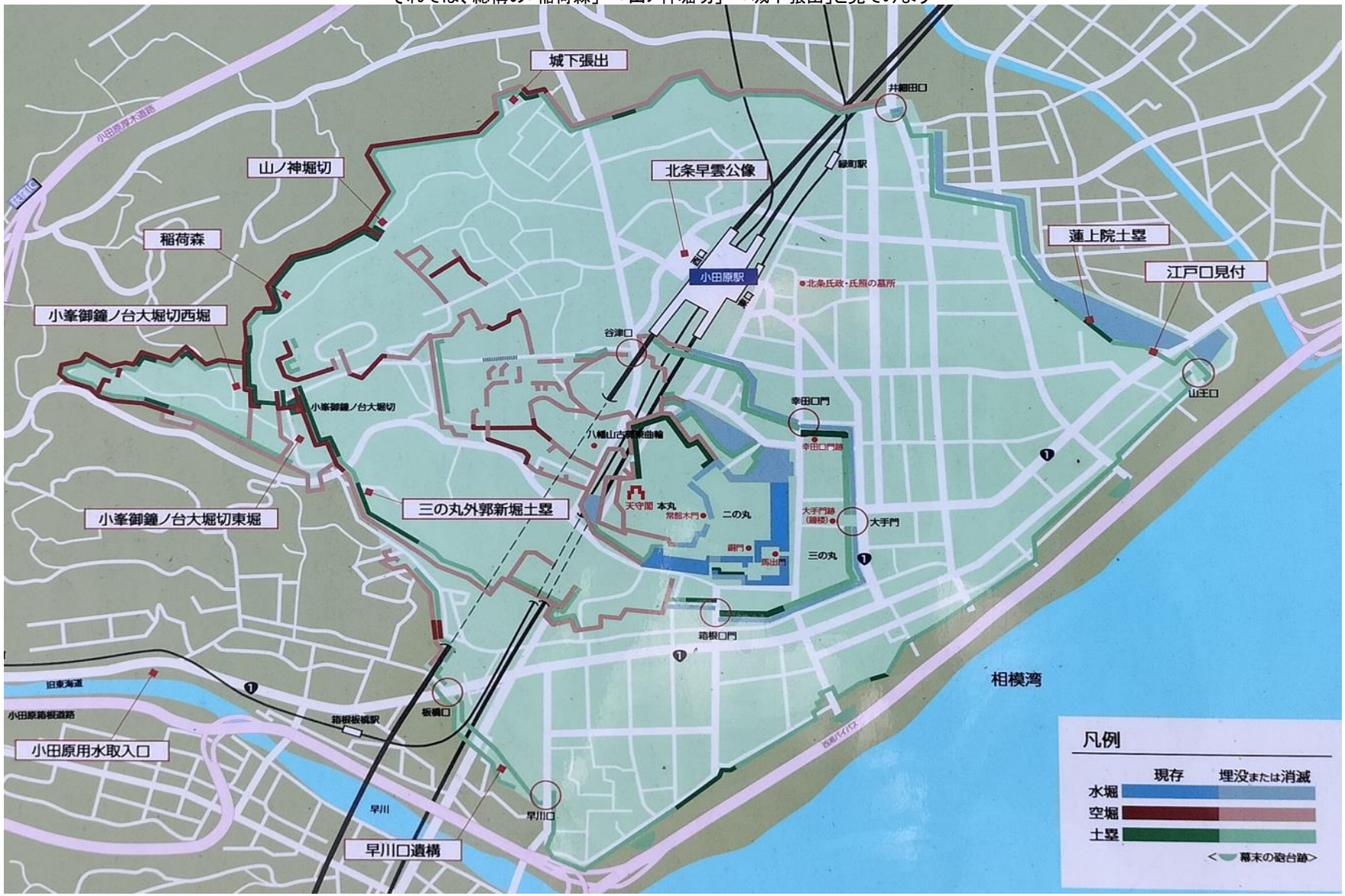
図2　発掘された「荻窪仕寄陣場」の全景
(株式会社　玉川文化財研究所提供)

そこから東方向を見たところ

video



それでは、総構の「稲荷森」～「山ノ神堀切」～「城下張出」と見てみよう



この先に「稲荷森」の総構がある

ここが「稲荷森」の総構/右手に説明板がある

video

video

史跡
小田原城跡

総構　稲荷森

Inarimori outer citadel of Odawara castle

ここは字名から「稲荷森（いなりもり）」と呼称している総構（そうがまえ）の一部で、総構の中でも最も良好に遺構が残っている場所のひとつです。ちょうど総構の堀が地形に沿って弧を描いている様子が確認できる部分で、堀の姿が良く観察できます。

内側には、わずかに土塁の痕跡が残り、外側にも「掻（か）き上（あ）げ土塁」と呼称する土塁の痕跡が確認できます。総構堀は、尾根の頂部からやや下がった部分に構築し、外側にも土塁を築くことで、麓（ふもと）から攻め寄せる敵兵からは堀の存在が確認できない状況を作っています。

ここは、掻き上げ土塁・堀・土塁と総構の構造もよく確認できます。

図1 「文久図」より

図2 内側からの様子

そこで、真下の堀跡を見たところ

同じく、左手を見たところ

同じく、右手を見たところ

video

これは右手の堀跡上部の「掻き上げ土塁跡」

さて、こちらは「山ノ神堀切」/説明板が立っている

video

国指定史跡小田原城跡
そうがまえ やまのかみ ほりきり
総構山ノ神堀切
この場所には、谷津丘陵を横断する堀切がありました。
この堀切により谷津丘陵は東西に分断され、それぞれ独
立させる効果を持っていたと考えられます。
小田原市教育委員会

これが「山ノ神堀切」

video

その先に説明板があった

video

史跡
小田原城跡

山ノ神堀切
Yamanokami moat of Odawara castle

戦国時代の小田原城の一画を形成した谷津丘陵上の通行を制約するために設けられた堀切が山ノ神堀切です。

今のところ発掘調査が行われてないため、本来の堀の規模は確認できていませんが、現状よりさらに深い堀であったと考えられています。

北側は小峯御鐘ノ台大堀切西堀と同様に高低差をもって総構堀と連結し、南側の百姓曲輪の西堀と連携して御前曲輪を区画する役割も担っています。このことから、小田原城の北側を守る重要な堀であったことがわかります。

江戸時代にはこの位置に門が設置され、山番と呼ばれた小田原藩士により、朝夕に開閉されていました。

図1 「文久図」より

図2 「文久図」より山ノ神堀切周辺図

2018.3 小田原城総合管理事務所

近くに「百姓曲輪」があるようだ

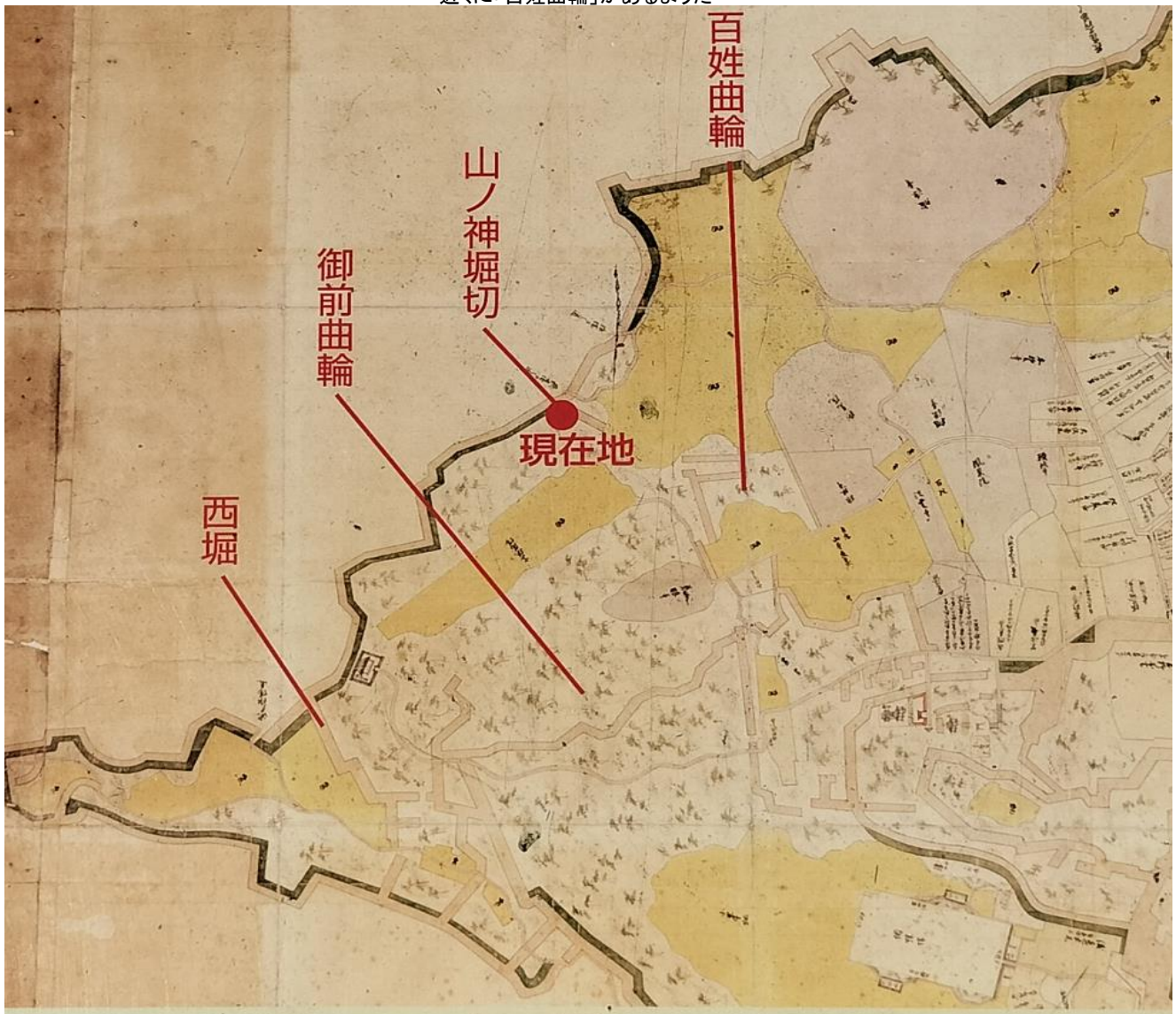


図2 「文久図」より山ノ神堀切周辺図

その先の下を見ると、これが総構の堀跡

堀底に下りて西方向を見たところ

video

少し進んでみると、土塁が沿っている

video

その少し先は畑地となっていた

video

土墨の上に登って、西方向を見たところ

video

堀底を振り返って東方向に見たところ

video

土墨の上に登って、東方向を見たところ

video

さて、ここは総構の「城下張出」

video

この平場が「城下張出」 video

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ

そこから左下に下り、「城下張出」を見上げたところ

そこで、左手を見たところ

video

これは「城下張出」の平場に立っていた説明板

video

「城下張出」の平場から北方向を見たところ/前方からの虎口でもあったようだ

video

これはその付近から西方向に延びる総構の様子を見たところ

ここは 「城下張出」の東側で、正面は総構の堀跡/「城下張出」を取り巻いている

正面の上部が「城下張出」

video

堀跡を進んで、振り返って見たところ/左上が「城下張出」 video

そこで、右手を見たところ/堀跡が直角に折れて、雛壇状に下がりながら続いている

video

堀跡に立っていた説明板

史跡
小田原城跡

総構　城下張出

Shirositaharidashi outer citadel of Odawara castle

ここでは上段の城下張出（しろしたはりだし）を囲むように総構堀（そうがまえ）がめぐっています。西側はほぼ直角に曲がって茶畑の位置に堀が走り、東側は竪堀状（たてぼりじょう）に斜面を堀が降りていきます。

斜面の堀は、堀の水が一気に流れ落ちることを避けるための堀障子（しょうじぼり）が設けられ、「障子堀」となっていたと考えられます。これには、敵兵の往来を阻むとともに、斜面においても水を貯水して水堀とする効果がありました。堀の壁面は硬質・粘質な関東ローム層であるため、足に水が着くと堀の斜面を登ることは不可能となります。障子堀を多く用いることで、小田原城は防御力を高めていました。

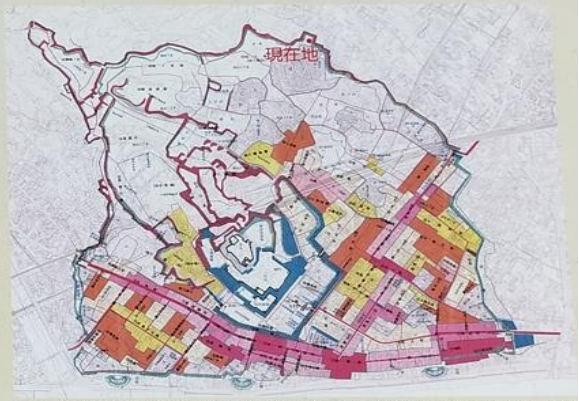


図1 「現代図に複合させた城下町宿場町 小田原の町名・地名」より

図2 障子堀想像図

2018.3 小田原城総合管理事務所

さて、次は三の丸新堀土塁～鉄砲矢場～八幡山古郭東曲輪と進んでみよう

この先に三の丸新堀土塁があるようだ

史跡
小田原城跡
三の丸外郭新堀土塁
Sannomaru Gaikaku New Moat Earthen Walls
開園時間：10:00～15:00(時間が前後する場合あり)
休 園 日：年末年始(12月29日～1月3日)
お 願 い
・開園時間外は施錠するため立入できません
・自転車やバイクの乗り入れはできません
・ペットは放さずリードを付けてください
・ゴミやペットのフンはお持ち帰りください
・花火やたき火、火器の使用はできません
・他の人の迷惑になることをしないでください
・許可なくドローンを飛ばさないでください
・その他、管理者の指示を守ってください
2020.03 小田原城総合管理事務所

史跡
小田原城跡

三の丸外郭 新堀土塁

Shinboridorui citadel compound

ここは、文献史料の記載から、天正15年（1587）には存在していたことが知られる「三の丸新堀」に伴う土塁を中心とした場所です。「三の丸新堀」は小田原北条氏の時代の堀の名称として、唯一確認できるものです。総構ができるまでは小田原城の外郭線でしたが、総構が構築されたことで、ひとつ内側の堀となりました。

この場所は、総構構築後も総構との結節点にあたる重要な場所であり、小田原北条時代の三の丸土塁の形状がよく残されています。

眺望にも優れており、南には相模湾や伊豆大島を望み、西には箱根の山並みを眺めも目の前に見ることができます。小田原城の西端に位置することから豊臣秀吉が築いた石垣山城も目の前に見ることができます。

図3

図4

図3・4 発掘調査で確認された、堀障子を持つ新堀

新堀土塁からの眺望

開園時間があるようだ

ここが三の丸外郭の新堀土塁（右手）

そこで、右手を見たところ

同じく、左手を見たところ

video

少し進んで、その先を見たところ

土塁の上に登って、南方向を見たところ

そこで、振り返って見たところ

同じく、西方向を見たところ/正面に石垣山が見える

video

土塁を下りて、北方向を見たところ

video

説明板

国指定史跡小田原城跡　三の丸外郭新堀土塁

小田原城を本拠とする小田原北条氏は、天正18年（1590）の豊臣秀吉との小田原合戦を迎えるまでに、堀と土塁で周囲9kmにわたる総構を構築しました。

それ以前には、総構の内側に「新堀」と呼ばれる外郭がありました。この場所は、「新堀」と土塁の名残が色濃く残る場所になります。ここは小田原城の西端で一部が総構と重なる位置にあります。前方には、豊臣秀吉の陣城である石垣山（一夜城）、細川忠興の陣場の富士山砦（板橋城）を眺望することができます。

江戸時代になると、この場所は「御留山」となり、一般の人の立ち入りが禁止されました。明治維新を迎え、閑院宮家の所有を経て、昭和35年（1960）に（財）MRAハウスの所有地となり、平成18年（2006）までアジアセンターODAWARAとして活用されていました。そして平成19年に国指定史跡に指定され、平成20年に史跡用地として公有地化しました。

This place, located at the west end of Odawara castle constructed by the Hojo Family, is the site of Odawara castle earthen walls of fortification. Sites of Ishigakiyama castle,constructed in 1590 by TOYOTOMI Hideyoshi, in order to attack Odawara castle for the sake of conquering the whole nation, and Fujiyama fortress (Itabashi castle), constructed by HOSOKAWA Fujitaka and his son Tadaoki who both served under TOYOTOMI Hideyoshi, can be viewed from here.

写真1　小田原城周辺

写真2　箱根・石垣山方面を望む

小田原市教育委員会

更に南方向の様子

そこで、右手を見たところ

video

さて、ここは鉄砲矢場のあった場所/正面に標柱が立っている

「鉄砲矢場」と刻まれている

裏面には説明書きもあった

video

ここは八幡山古郭東曲輪跡/説明板が立っている

video

城域の南側には総構の早川口遺構や蓮上院の土塁が残っているようだ

小田原城跡

八幡山古郭・総構

小田原城は、15世紀前半に大森氏により築城されたと考えられています。

文亀元年(1501)までに、伊勢宗瑞(北条早雲)が大森氏から小田原城を奪い取り、二代目氏綱以降、小田原北条氏の本拠地となります。これ以降、五代氏直が豊臣秀吉との小田原合戦で開城するまで、小田原は関東支配の拠点として栄えました。

八幡山古郭は、八幡山丘陵の尾根上、標高69m付近の平坦部を中心とした戦国期小田原城の遺構が集中している場所で、当時の小田原城の主郭があったと推定されるなど、小田原城を考える上で重要な場所です。県立小田原高校校地内で行われた発掘調査では、城の虎口(出入り口)部分を形づくっている障子堀(堀の中に仕切りを伴う堀)や石組を持つ大規模な井戸跡が発見されました。現在でも所々に土塁や堀が残されています。

また、小田原城の一番外側にある総構は、小田原北条氏が城と城下町を土塁や堀で囲んだ全長約9kmの防御施設です。これは、天正18年(1590)の豊臣秀吉との合戦に備えて構築されたものであり、小田原が戦国時代最大の城郭都市であったことを示す歴史的価値の高い文化遺産です。

丘陵部の総構は、自然地形を巧みに利用して築かれました。平成13年(2001)に発掘調査を行った伝肇寺西第Ⅰ地点では、幅16.5m、深さ10.0mの堀が見つかっています。これは堀底に高さ1.7mの仕切りを伴う障子堀といわれる堀で、失われた土塁を含めた本来の規模は、更に大規模であったと想定されます。堀の法面は、約60度の角度でほぼ直線的に立ち上がっており、この堀を乗り越えるのは困難であったことがわかります。

低地部の総構は、早川や山王川近くの湿地帯や海岸沿いの地形を巧みに利用して造られた土塁や堀で成り立っていました。早川口遺構や蓮上院などで土塁が国の史跡に指定され、残されています。そのほか現在では埋没してしまった堀や削平された土塁でも、地割や水路などから当時の総構の痕跡を見られる場所があります。

ここを登って行く

video

南方向を見ると小田原城天守が見えた

アップで見たところ

video

坂を登り切ると平場があり、説明板があった

国指定史跡小田原城跡

八幡山古郭 東曲輪

（はちまんやまこかくひがしくるわ）

指定 平成18年1月26日

東曲輪は八幡山古郭の東寄りに位置します。平成17年(2005)に行われた発掘調査では、16世紀代の半地下式の倉庫等と考えられる方形竪穴状遺構や掘立柱建物跡が発見されたことから、戦国時代にはこうした施設を伴う曲輪のひとつであったと考えられます。また縄文時代の土器や石鏃が出土したほか、古墳時代の方形周溝墓も発見されたことなどから、八幡山一帯では古くから人々の生活が行われていたことがわかりました。

東曲輪からは、西方に天正18年(1590)の小田原合戦の時に豊臣秀吉が本陣をすえた石垣山一夜城を望むことができます。

さらに東には、天守閣を中心に周囲に広がる小田原城下を望むことができるなど、小田原合戦の歴史の舞台や城と城下町の様子を通して、戦国時代や江戸時代の小田原城の歴史を知る上で大変貴重な場所といえます。

この土地は市民の熱意や関係者の理解と協力のもとに小田原市が取得し、国の史跡として将来にわたって保存されることとなりました。

Hachimanyamakokaku Higashikuruwa

In the excavation research of this area, performed in 2005, found an ancient structure and remains of Jomon and Kofun Period, and of the Middle or Modern Ages.
From this result, it is thought that this area was constructed in the 16th century and there were some buildings on the place.
Since this area was private estate then, the plan of constructing an apartment house had arisen around 2004. It became public place for the negotiation with landowner. In 2006, it was designated National assets.

八幡山古郭東曲輪調査区全景

縄文時代の土器

縄文時代の石器

方形周溝墓遺物出土状況

土師器出土状況

方形竪穴状遺構

戦国時代の中国産磁器

戦国時代の天目茶碗

小田原城天守

video